

製品名: PDGF 受容体 α (リン酸化 Tyr1018) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05225**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 -20°C で保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	180kDa

抗原情報

遺伝子名	PDGFRA PDGFR2 RHEPDGFRA Platelet-derived growth factor receptor alpha (PDGF-R-alpha) (PDGFR-alpha) (EC 2.7.10.1) (Alpha platelet-derived growth factor receptor) (Alpha-type platelet-derived growth factor receptor) (CD140 antigen-like family member A) (CD140a antigen) (Platelet-derived growth factor alpha receptor) (Platelet-derived growth factor receptor 2) (PDGFR-2) (CD antigen CD140a)
別名	
遺伝子 ID	5156.0
SwissProt ID	P16234
免疫原	ヒト PDGF 受容体 α (Tyr1018) 周囲の合成リン酸化ペプチド

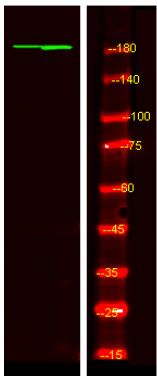
背景

この遺伝子は、血小板由来増殖因子ファミリーに属する細胞表面チロシンキナーゼ受容体をコードしています。これらの増殖因子は、間葉系細胞のマイトジェンです。受容体モノマーに結合する増殖因子の種類によって、機能的な受容体がホモ二量体かヘテロ二量体（血小板由来増殖因子受容体 α および β ポリペプチドの両方から構成される）かが決まります。研究によると、この遺伝子は臓器の発達、創傷治癒、腫瘍の進行に関与することが示唆されています。この遺伝子の変異は、特発性好酸球増多症候群、体細胞性および家族性消化管間質腫瘍、その他様々な癌との関連が報告されています。 [RefSeq 提供、2012年3月],触媒活性: ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシンリン酸。 ,疾患: PDGFRA と FIP1L1 の融合 (FIP1L1-PDGFR A) は、染色体中間部の欠失により、好酸球増多症候群 (HES) の一部の症例の原因となる [MIM:607685]。 HES は、骨髄における好酸球の持続的な過剰産生、好酸球増多、組織浸潤、および臓器障害を特徴とするまれな血液疾患である。 ,機能: PDGFA と PDGFB の両方に結合し、チロシンタンパク質キナーゼ活性を有する受容体。 ,類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。 Tyr タンパク質キナーゼファミリー。 CSF-1/PDGF 受容体サブファミリー。 ,類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。 ,類似性: 5つのIg様C2型 (免疫グロブリン様) ドメインを含む。 ,サブユニット: ホモ二量体、および PDGFRB とのヘテロ二量体。 SHB の SH2 ドメインとリン酸化 Tyr-720 を介して相互作用する (類似性による) 。 SHF の SH2 ドメインとリン酸化 Tyr-720 を介して相互作用する。 組織特異性: 原発性および転移性大腸腫瘍、ならびに正常大腸組織で発現する。 腫瘍は正常組織とは異なるアイソフォームを発現する場合がある。 ,

研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;カルシウム;サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;エンドサイトーシス;接着斑;ギャップ結合;アクチンと細胞骨格の調節;がんにおける経路;結腸直腸がん;神経膠腫;前立腺がん;黒色腫;

画像データ



LPS 処理または未処理の HeLa 細胞を、一次抗体を 1:1000 希釈でウェスタンブロット分析した。二次抗体は 1:10000 希釈で行った。